

埼玉県北部に位置する行田市は都心から1時間程度の距離で、都内へ通勤する市民も多くいます。かくいう私も高校から都内へ通い、大学卒業後、都内の会社へ就職、結婚後に転居し、最終的に実家を改装し両親との同居がはじまり、その後も都内の設計事務所へ通勤する毎日でした。父の看病の為サラリーマン生活を止め介護に専念し、父が亡くなった後、地元で建築設計事務所を開業しました。

そんな経緯の開業なので、特に仕事の当ても無い中で、建築設計者とはどのような職能を持つのか、市民の皆さんに知って貰い、自らの活躍の場を広げようと、建築士仲間を集め「まちづくり勉強会」を始めました。実は開業した私の事務所は、足袋の製品保管庫「足袋蔵」を改装したもので、商工会議所所員に誘われ、旧小川忠次郎商店の活用方法をお手伝いしたのが足袋蔵ネットワークの発端です。その後勉強会の仲間が足袋蔵ネットワークメンバーとして参加したので、46名中8名が一級建築士です。

「行田市」と伝えても誰も聞いた事もなく、位置が解らな

い中「足袋で有名な町ね」と言ってくれた同級生の両親がいました。昭和初期生まれの世代には知られた町だったようです。そんな原体験から、町の文化を誇りに思い、市民のアイデンティティーとして確立し、うち捨てられ忘れ去られようとしている足袋蔵等近代化遺産を活用して見せる事で、立派な町の資産であると理解して貰おうと活動しています。

市民には「ありふれた町の風景」が、実は他者（来街者）からすれば文化的価値を背負った建造物になる「蔵めぐりまちあるき」イベントを2005年から毎年開催しています。活用事例の点と点を結んで線にして、いずれは景観計画など面として整備されれば良いと考えています。

我々の活動は当初から建築物の保存という捉え方は無く、あくまで「活用」が主体でした。建築は利用目的の為に成されたもので、足袋蔵は、元は倉庫でしか無く、実用の為に建てられたものです。昔、足袋は防寒が主体であり、秋口の出荷を目指して製品を保管し、火災による被害を避ける為に取り入れられたものが土蔵造りの倉庫です。

活用の為の苦労は、やはりその土蔵造りに起因するも

のが多いです。土蔵造りは一般の木造建築より重量があり、不同沈下がおきている例が殆どです。新たに建具等を設ける場合、水平や垂直に取り付けるのでその帳尻を上手くごまかさないといけません。土壁はごくありふれた竹と藁と土で作られていますが、手間と時間が掛かる作業で、現代ではとても高価なものとなってしまいます。資金的には公的な助成金をコンペを経て獲得しています。14年間の活動で得た改修資金は4,600万円程ですが、設計監理がボランティアなので、専門職のいない団体などよりは効率的な活動だと思います。

行田市の日本遺産認定は3度目の挑戦にして得た快挙で、「和装文化の足下をささえ続ける足袋蔵のまち行田」と国内唯一の足袋で栄えた町の文化を認めて頂いた結果なので、少なからず我々の活動の成果もあると自負しています。それまでは文化ではなく、斜陽産業的な捉えられ方でした。実用品としての足袋でしたが、最近はファッションとしても受け取られ、産業そのものも変化しています。未だ「産業」と「文化」を混同してイベント主体の展開を唱える

人も多いですが、小さな火でもいったん点いてしまえばやがては燃えさかる炎になって行くのだと思います。

建築実務者から観る土木構造物の可能性は、経年変化に強く頑強に造られていてメンテナンスの意味からも建築物より優位な一面、活用の方法となると「人」が使う為には法令の整備等が必要と思われます。モニュメント的に「遺構」として一部分が残されても、全体が想像出来ない、モニュメントとしての感動が薄れてしまいます。余部鉄橋は良い形で残されていると思いますが、後から造られたコンクリート構造物のボリュームが圧倒的で、対比と調和を考慮してもう少し存在感を消せるような構造を採れなかったものかなと感じました。

今後の活動としては、あくまでも市民活動なので無理のない範囲で、活動そのものが楽しくありたいと思っています。また、蔵の所有者の意向や都合もあるので「その場に応じて」となるケースが多く、場当たりの活動になりがちですが、それに対応出来るよう、様々なバックデーターを蓄積して行きたいと思っています。

旧小川忠次郎商店の店舗及び主屋（写真：朽木宏）

特集

土木施設の転用

MESSAGE

## 近代化遺産を活用した まちづくり



朽木 宏  
KUCHIKI Hiroshi

**プロフィール**  
NPO法人ぎょうだ足袋蔵ネットワーク代表理事。クチキ建築設計事務所代表。ものづくり大学客員教授。一級建築士。応急危険度判定士。1957年埼玉県行田市生まれ。日本大学理工学部建築学科卒業後、都内の建築設計事務所勤務を経て行田市に戻り、2002年に足袋蔵を改装してクチキ建築設計事務所を開業。2004年には「NPO法人ぎょうだ足袋蔵ネットワーク」設立に携わり、代表理事に就任。市民自らの手による足袋蔵を活かして暮らしを楽しめるまちづくりを進めている。2006～2007年行田市景観審査委員会代表代行。2008年から行田市都市計画審議会委員／行田市公益活動促進のための基本方針実施計画策定委員長。